野菜産地強化計画一覧

※目標年度：R９

策定年度	No.	計画主体	指定特定産地名	品　　目	栽培面積(ha)		出荷量（トン）		取組戦略タイプ
					現状	目標	現状	目標	
R６策定（１３計画）	1	JAふじ伊豆	三島	冬春トマト	25.8	25.8	2,866	2,952	資材低減、低コスト
	2	JAふじ伊豆	三島	ばれいしょ	14.5	15.0	280	320	加工・業務
	3	JA大井川	志太	冬春トマト	16.5	17.4	300	314	高付加価値
	4	JA大井川	－	みつば	12.0	12.0	212	270	契約取引
	5	JA遠州中央	磐田	冬春トマト	7.9	7.9	180	181	契約取引、高付加価値
	6	JA遠州夢咲	大城	春夏にんじん	8.8	9.2	533	630	契約取引、高付加価値
	7	JA遠州夢咲	小笠	冬春トマト	21.3	22.0	2,120	2,500	低コスト、資材低減
	8	JAとぴあ浜松	浜松	セルリー	55.0	49.0	3,822	3,591	資材低減
	9	JAとぴあ浜松	西遠	たまねぎ	165.0	173.0	7,643	8,000	高付加価値
	10	JAとぴあ浜松	遠州	チンゲンサイ	199.0	200.0	4,980	5,000	資材低減
	11	JAとぴあ浜松	三方原	ばれいしょ	132.0	128.0	4,687	5,000	高付加価値
	12	JAとぴあ浜松	浜松	みつば	66.0	66.0	819	820	契約取引
	13	JA三方原開拓	三方原	ばれいしょ	3.0	3.0	45	45	資材低減
	14	(株)アイファーム	－	ブロッコリー	177.0	250.0	1,770	2,500	高付加価値
R７策定（２０計画）	15	JAふじ伊豆	三島	冬レタス	36.0	36.0	1,078	1,109	高付加価値
	16	JA大井川	志太榛原	冬レタス	90.0	100.0	3,000	3,300	低コスト、資材低減
	17	JAハイナン	志太榛原	冬レタス	130.0	130.0	3,540	4,000	資材低減、加工・業務
	18	JAハイナン	志太榛原	サニーレタス	12.0	13.0	220	260	資材低減
	19	JAハイナン	榛南	秋冬だいこん	30.0	30.0	1,500	2,100	資材低減
	20	JA遠州夢咲	小笠	冬レタス	23.0	19.0	795	700	契約取引
	21	JA遠州夢咲	－	メキャベツ	22.3	20.0	237	200	低コスト
	22	JA掛川市	小笠	冬レタス	4.0	4.0	120	120	低コスト
	23	JA遠州中央	磐田	冬キャベツ	55.0	60.0	2,818	3,000	加工・業務
	24	JA遠州中央	磐田	秋冬ネギ	47.0	42.0	675	680	契約取引
	25	JA遠州中央	周智	冬レタス	63.0	65.0	2,128	2,145	資材低減
	26	JAとぴあ浜松	西遠	冬レタス	28.0	28.0	806	800	契約取引
	27	JAとぴあ浜松	西遠	冬キャベツ	138.0	138.0	7,042	7,000	低コスト
	28	JAとぴあ浜松	－	葉ねぎ	160.0	160.0	3,453	3,400	高付加価値
	29	JAとぴあ浜松	－	トマト	7.0	6.0	348	316	資材低減
	30	JA三方原開拓	西遠	冬レタス	0.1	0.12	1.0	1.2	資材低減
	31	(株)Veggy	西遠	冬レタス	25.0	25.0	420	500	低コスト
	32	JAとぴあ浜松	遠州	冬ブロッコリー	9.0	9.0	161	160	加工・業務
	33	JA三方原開拓	遠州	冬ブロッコリー	0.6	0.7	4	5	資材低減
合計					1,783.8	1,864.1	58,603.0	61,918.7	

取組戦略タイプ名	取組内容
低コスト化タイプ	輸入野菜にコスト面でも対抗しうる産地とするため、生産・流通コストの削減等を目標とする更なる低コスト化の取組。
契約取引推進タイプ	実需者のニーズに応えつつ、安定した経営を確保するため、定量、定価、定時、定質による契約取引の継続・拡大等の取組。
高付加価値化タイプ	消費者・実需者ニーズに対応して、品質、機能性、安全・安心、鮮度などの観点から差別化・付加価値化した野菜を供給する取組。
資材低減タイプ	資源循環型の持続可能な産地とするため、効率的な施肥体系への転換等を行い肥料、燃油その他資材の使用を抑制する取組。
加工・業務用推進タイプ	加工・業務用需要に対応した生産の拡大を図るために、実需者ニーズを踏まえて、加工・業務用野菜を安定供給する取組。